

寧ろ我々は穩健なる組合の發達を希望し、其爲には相當の保護さえ辭しない位に思つて居る。又組合の諸君は労働状態、對労働者施設の研究のために會社に來て貰ふが宜い。お互に手を取つて研究せねばならぬ。」と云ひたるが、佐々木氏が麻生氏を難するの點は、組合幹部が會社の施設に不滿の場合、何等之に關する内交渉を試むることなく、直に公に是に要求の名を冠し、罷業の武器を眞向にして正而より詰め寄ることありて、又麻生氏に對して許さざる點は、佐々木氏が礦夫總聯合會の現狀に於て労働條件の維持改善を之と協議するは不合理なりとなすの點なり。此第一回會見は存外圓滿に各條に對する逐條の研究をなし佐々木氏より「會社の方は僕が纏めるから、労働者の方は君が纏めてくれ給へ」と云へるに對し、麻生氏が飽迄大事を探り「正式の交渉は労働者の中から委員を選び、私の後見を認めてやらして下さい」と要求したり。佐々木氏は「労働者のことは労働者を相手にしか交渉せぬ」と云ふ程の野暮を云ふ私でないところを買つて、正式委員云々は撤回したらどうだ」と難色を見せ、結局此十委員問題に就て佐々木は熟考し、若し應ずるを得ば更に第二回會見の場所時間を通知すべしと約して別れたり。

同夜に到るも佐々木氏より第二回會見の場所、時間を通知し來らず。佐々木氏は素より足尾鑛業所幹部に諮り其上にて事を議せんとするものに非れども、此十委員問題は會社對組合の交渉となるの結果を來すため鑛業所幹部は難色あるを以て、佐々木氏亦之を好まざりしなり。十五日深更まで佐々木氏の會見返答を待ち得ざりし資場課長は、非常に憂慮し十六日午前十時第一回會見の延長として更に兩氏を會見せしめたるに佐々木氏は「どうも十人委員説は反對が多くて困る。それでなくてさえ、鑛業所役員の激情は私の此態度に慄らす思つて居るのだ、今のところ何時になつたら、それが緩和されるか不明だ、お互ひ再考しようぢやないか」とて會見十分にして別れたり。

### 内務省の罷業状態發表

十五日午後一時五十分加藤勘十氏は通洞に着したり。午後二時より足尾館に於て演說會開催、棚橋加藤兩氏の演說あり、散會の間際に麻生氏亦駈けつけて「持久の要」を熱烈に説くところありたり。同日より内務省は栃木縣廳の報告に依り足尾の罷業状態を發表すること、なせり、其發表に依る十五日罷業状態左の如し。

發表、入坑者通洞は十四日に比し六十人増加す、本山は十四日より四十三人減す、小瀧は二十七人減す。

尙解雇者にして十四日まで解雇手當を受取りたる數左の如し。

△通洞解雇手當受取者八十四人(解雇者百三十六人)△本山解雇手當受取者二十人(解雇者百十三人)△小瀧解雇手當受取者五十一人

(解雇者五十二人)△其他解雇手當受取者三十六人△計解雇手當受取者百五十五人(解雇者三百三十七人)

罷業の發祥地たる通洞の結束漸く緩めるに不拘、本山の頑として動せざるの情見るべし。

十六日午前十一時三十分、家族大會代表者婦人五名、通洞岩上さく(五八)森みよ(二七)本山松岡み